



ならエコファーマー通信

奈良県エコファーマー連絡会

第3号

奈良県エコファーマー連絡会 第2回通常総会を開催



平成20年10月29日(水)、橿原市の農業交流館にて、奈良県エコファーマー連絡会第2回通常総会を開催しました。

会員24名、市町村・県関係機関が出席し、平成19年度の事業報告後、平成20年度の事業計画について協議を行い、下記の事業が承認されました。

平成20年度事業計画

(平成20年10月～平成21年9月)

■総会・役員会の開催

■環境保全型農業技術の研修、情報提供

会員の環境保全型農業技術の向上を図るため、技術研修会の開催および会員相互の情報交換や技術交流を行う。

- (1) 環境保全型農業技術研修会の開催 (10/29、2月)
- (2) エコファーマー技術交流会の開催 (10/29)
- (3) ならエコファーマー通信の発行 (11月、3月)

■エコファーマーの取組、農産物のPR

エコファーマーの活動を周知し、エコファーマー農産物の付加価値を高めるために消費者・流通業者・実需者等に広くPRを行う。

- (1) エコファーマー活動PRパネルの作成と貸出
- (2) 食と農のフェスティバルにおけるPR (10/25～26)
- (3) 消費者交流会(エコファーマー体験ツアー)の開催 (11/22、4月以降)

総会終了後、農業総合センターの普及指導員・研究員をコーディネータにむかえ、「土づくり」、「葉菜類」、「果樹」の3分科会に分かれた技術交流会を行い、環境保全型農業の技術的な課題について情報交換を行いました。

土づくり分科会

主なテーマ
 ・土づくりの課題
 ・自給有機質肥料の肥料成分等



葉菜類分科会

主なテーマ
 ・太陽熱消毒の効果
 ・ミズナへの石灰資材施用等

果樹分科会

主なテーマ
 ・雑草対策
 ・たし肥の施用効果等



また、同日、環境保全型農業講演会を開催、東京農業大学 後藤 逸男教授より、「今こそ見直そう『土づくり』～肥料高騰に打ち勝てる土づくりとは～」と題して講演いただき、土づくりを基本として、土壌診断を行って過剰な施肥を抑制することの重要性について、学びました。講演会の資料を希望される方は、県農業水産振興課までご連絡ください。



環境保全型農業推進講演会

消費者交流会「エコファーマー体験ツアー」を開催しました

平成20年6月28日(土)、奈良市大柳生地域を会場に、大和高原野菜研究会のご協力の下、消費者交流会を開催、23名の消費者にご参加いただきました。

奈良市青少年野外活動センター(奈良市阪原町)に集合、エコファーマーの制度についての説明の後、出席した9名のエコファーマーが取組のPRを行いました。



開会挨拶

続いて、エコファーマークッキングとして、地域で考案された丸なす料理「丸なすの揚田楽」、「丸なすの一口揚げ」の調理実習を行いました。地元飲食店調理師の指導を受けながら、親子やグループで力をあわせて調理し、できたての丸なす料理を参加者みんなでおいしくいただきました。

また、調理実習後は、会場でエコファーマー農産物の直売を行いました。



エコファーマークッキング

丸なすの揚田楽
丸なすの一口揚げ

次に、エコファーマー農園ツアーとして、大和高原野菜研究会会長の松本孝志さん、大西衛さんの農園を訪問しました。

松本農園では、丸なすの圃場を見学し、ソルゴー障壁による害虫防除について説明いただきました。



松本農園訪問

大西農園では、ほうれんそう、こまつなのビニールハウス、エンパク作付圃場を見学、エンパクによるセンチュウ防除について説明いただき、ほうれんそう、こまつなの収穫体験を行いました。

当日は、あいにくの小雨でしたが、親子連れを中心とした参加者に、調理・収穫の体験を通じて楽しみながらエコファーマーの農業に親しんでいただくことができました。

次回は、11月22日(土)に五條市、下市町を会場に開催します。今後も、各地域での開催を計画していますので、交流会の開催に協力いただける方は、事務局までご連絡ください。



大西農園訪問

収穫体験

参加者の声 (アンケートから)

- エコファーマーマークは見たことがあったが、特に意識することはなかったので、生産者のお話が聞けてよかった。野菜の収穫は子どもに貴重な体験になった。
- エコファーマーの方が、どんな気持ちで野菜等を育てているのか少し分かったような気がします。大変だなと思いました。
- ツアーに参加した私たちが、身近な人にこの体験を伝えていきたい。

「なら食と農^{みのり}のフェスティバル」に出展・PRしました

平成20年10月25日(土)～26(日)、橿原市の橿原公苑で「平成20年度なら食と農^{みのり}のフェスティバル」が開催され、約52,000人の来場者で賑わいました。消費者に対して、エコファーマーの取組をPRするため、県エコファーマー連絡会より出展を行いました。

1日目は、出品希望いただいたエコファーマー4名により、エコファーマー農産物(ミニトマト、みずな、茎ブロッコリー、黒豆の枝豆、柿、黒豆等)の販売を行い、たくさんの方にお買い求めいただきました。

2日目は、エコファーマーPRパネル、県エコファーマー連絡会会員MAP、エコファーマー農産物等の展示、PRパンフレットの配布を行いました。

・1日目(10/25) エコファーマー農産物販売



・2日目(10/26) エコファーマーPR展示



エコファーマーPRグッズを貸し出します

エコファーマーの取組を消費者にご理解いただき、エコファーマー農産物の付加価値を高めるには、より一層のPRが必要です。

地域や生産団体等のイベント、農産物直売でエコファーマーをPRしませんか？

なら食と農のフェスティバルでも使用した「エコファーマーPRのぼり」、「エコファーマーPR用パネル」等の展示グッズを無料で貸し出します。また、エコファーマーパンフレットも在庫がある限り提供いたします。グッズの利用を希望される方は事務局までご連絡ください。

奈良県業導入持続的農指針の改正について(品目の追加)

平成20年4月1日および7月1日付けで、エコファーマーの取組に関する県の指針である「奈良県持続的の業導入指針」を改正しました。

改正点は、「ブルーベリー」、「茎ブロッコリー」、「きゅうり(抑制)」、「野菜苗」の4品目の新規追加です。

各品目の指針の内容は、奈良県のホームページをご覧ください。県農業水産振興課又は各農林振興事務所におたずねください。(県ホームページ <http://www.pref.nara.jp/nogyos/5kankyo/eco-farmer/ecofamer-3.html>) また、これらの品目について、新たに認定を希望される場合は、各農林振興事務所にご相談下さい。

地域でがんばる! エコファーマー

大和高原野菜研究会 (奈良市・6名・50、54、100～103号)

認定作物:丸なす、軟弱野菜、レタス、大和まな、祝だいこん等



今回エコファーマー体験ツアーでご協力いただいた大和高原野菜研究会を紹介します。

大和高原野菜研究会は、奈良市大柳生地域の農業者6名で平成13年に結成、大和野菜の丸なす、祝だいこん、大和まな、高原の冷涼な気候を活かしたレタス、ほうれんそうなどを栽培されています。

新鮮で安心・安全な農産物の生産を積極的に実践し、平成15年に全員がエコファーマーに認定されました。

研究会では、会員が連携して、地域の畜産農家の牛ふん、稲わら等を腐熟させた完熟たい肥を施用し土づくりを行い、定期的に土壌分析を行い、有機質肥料を主体とした施肥設計を行っています。

また、丸なすの栽培では圃場の周囲にパン

カー植物としてソルゴーを植えて害虫防除を行い、祝だいこんの栽培では、前作にエンバクを作付けセンチウの防除を行うなど、様々な技術を取り入れ、化学合成農薬の低減に努めています。



後列左から 大西衛さん、坊真一郎さん、堂前善秀さん
前列左から 上岡公雄さん、松本孝志さん、南垣内貞史さん

エコファーマーの認定状況

奈良県内では、エコファーマーが年々増加し、平成20年9月末現在、596名(法人含む)のエコファーマーが認定を受けています。作物別認定件数(作付面積1位の作物を集計)では野菜が最も多く、品目別の上位はほうれんそう(58件)、なす(51件)、茶(48件)です。

本年度は、平成15年度中に認定された40名の方(認定番号69号～108号)が、目標年度をむかえられます。実施状況報告書の作成・計画の更新については、各農林振興事務所にご相談下さい。



編集後記



稲刈りも終了し、土づくりの季節がやってきました。肥料高騰の中、経営コストを削減するためにも、土壌診断を行ってこれまでの施肥体系を見直しましょう。

活動紹介「地域でがんばる!エコファーマー」コーナーへの掲載のご希望、ご意見や記事の投稿をお待ちしています。第4号は平成21年3月発行予定です。

発行 奈良県エコファーマー連絡会

(事務局 奈良県農業水産振興課環境係)

〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30 TEL0742-27-7442 FAX0742-22-9521

平成20年11月発行